



せつぶん まめ とし かず た 節分の豆を、年の数だけ食べるとするのは、どうしてなの

まめ た ねん ぶ じ く 豆を食べると、1年が無事に暮らせるから

せつぶん おこな まめ おに お わざわ しあわ まね ねが
節分に行う豆まきは、鬼を追いはらうためのもので、災いをさけ、幸せを招くことを願
おこな ぎょうじ むかし ひと びょうき おに かんが わる おに
って行う行事です。昔の人は、病気はすべて鬼のしわざと考え、悪いことをする鬼がこ
ねが まめ
ないようにと願って、豆をまいたのです。

せいしき まめ ほうほう ごご じ じたく かってぐち えんがわ
正式な豆まきの方法は、午後8時ごろから10時ごろに、自宅のげんかん、勝手口、縁側
と あ はな としおとこ ます い まめ て はい かくへ や
などのすべての戸を開け放ち、年男が井に入れた豆を手にしてげんかんから入り、各部屋の
で い くち ぶく うち おに そと かい かえ まめ
出入り口のところで、「福は内、鬼は外」ということばを2回ずつくり返しなが
かぞく まめ た
ら、豆をまきます。そのあと、家族そろって豆を食べます。

まめ としと まめ じぶん とし かず た ちほう
この豆は、「年取り豆」ともいわれており、自分の年の数だけ食べます。地方によっては、
とし かず おお た まめ とし かず た ねんかんけんこう
年の数より一つだけ多く食べることもあるようです。豆を年の数だけ食べると、1年間健康
く
に暮らせるといわれています。豆を食べると、「まめ(健康)になる」といわれることから、
はじ
始まったものです。

さいかさき ヤイカガシをぶら下げる

せつぶん ひ いえ とぐち あたま や くし さ
節分の日に、家の戸口にイワシの頭やネギなどを焼いたものを、串にさしてぶら下げる
しゅうかん ぜんこくてき み
習慣が、全国的に見られます。これをヤイカガシといいます。ヤイカガシというのは、焼い
たもののおいをかがせて、びょうき ふこう わる き お
たものにおいをかがせて、病気や不幸をもたらず、悪い気を追いはらうという意味です。
また、イワシのあたま のきさき おに
頭をヒイラギにさして、軒先にかざります。イワシで鬼をおびきよせ、ヒ
おに め ま
イラギで鬼の目をつくという魔よけです。(監修・田代 脩)

